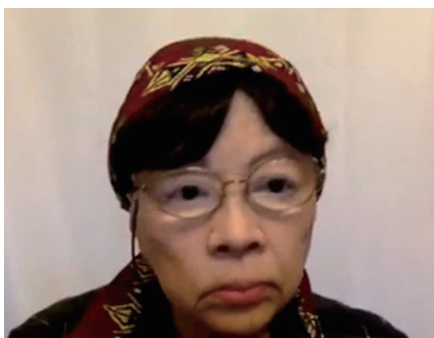


◎本会の動き◎

☆女性技術者ネットワーク 報告☆ 2021年7月29日 オンライン開催

化学工学会男女共同参画委員会では、自然科学系女性技術者・研究者の抱えている様々な課題について情報交換をおこない、女性技術者・研究者のネットワークを作ることを目的に、「女性技術者ネットワーク」という会合を2012年から継続的に開催しております。今年度1回目の会合は、7月29日(木)18:00からオンラインで、2名の講師の方にご講演いただいた後、交流会をおこないました。

はじめに、「無意識のバイアスとあなたの未来」と題して、(元)日本大学 総合科学研究所教授である大坪久子先生にご講演いただきました。大坪先生は、ご専門の分子生物学・ゲノム生物学の研究に加えて、自然科学系分野の100以上の学協会からなる男女共同参画学協会連絡会 (<https://djrenrakukai.org/index.html>) を中心に、長年に亘り女性研究者支援などにご尽力なさっております。ご講演では、女性研究者・技術者の採用や評価における「無意識のバイアス」について、国内外の事例を挙げながら分かりやすくご説明いただきました。その中で、人工知能(AI)採用では過去のジェンダーバイアスを受け継いでいるため、決して中立ではなく、社会の未来を阻害しかねないというお話には衝撃を受けました。ご講演の後半では、リーダー育成におけるバイアスに関する事例や取り組みをご紹介いただきました。女性リーダー育成には、家事育児等との両立支援に加えて、女性側の役割意識を変えてゆく支援、背中を押す支援が必要という点には深く共感致しました。最後に、組織が無意識のバイアスを超えるためには、何よりもトップのリーダーシップが必須であり、トップダウンでシステム改革と意識改革を繰り返して説得することなどの重要性を述べられました。



オンライン上でご講演される大坪久子先生

続いて、名古屋大学未来材料・システム研究所の准教授である田川美穂先生に、「研究も子育ても自己組織化で～自然の力を信じ

ること～」と題し、ご講演いただきました。はじめに、DNAを用いてナノ粒子を様々な結晶構造(超格子構造)に組み上げる研究についてのお話をいただきました。電子材料、光学材料やゲノム編集への応用にもつながる大変興味深い技術です。それから、学生時代(女性割合1割以下)と米国での研究員時代(女性割合3割超)を比較し、3割を超えてマイノリティではなくなることによる変化を、実感を通してご説明いただきました。マイノリティでなかった米国での研究生活が大変やりやすかったことから、現在の日本では、割合が低いが故に女性が活躍しにくく、潰されやすくなっている現状があり、それを変えていくべきという、心に迫るお話でした。また、仕事と子育ての両立の大変な部分のご紹介とともに、単身赴任で子育てをしている教職員が自発的にネットワークを作って支え合っているというお話や、与えられた環境で最大限のことをしなければならぬという気持ちの整理のつけ方など、その時その時の心の迷いも含めて率直にお話ししてくださり、現在悩みながらも頑張っている聴講者の方々にとって、共感でき、かつもう一歩頑張っていこうと思えるご講演だったと思います。まだまだジェンダーギャップはあるけれど、一緒に頑張ろうという、田川先生の強いメッセージを受け取ることができたご講演でした。



オンライン上でご講演される田川美穂先生

ご講演後には、5グループに分かれて講師と参加者、参加者間のオンライン交流会をおこないました。それぞれのグループにおいて仕事やワーク・ライフバランスなどに関する様々な情報交換が活発におこなわれました。無意識のバイアスについて「仕事で感じていたモヤモヤが腑に落ちた」「外国人研究者も日本ではマイノリティであり、女性研究者と同様な孤独感や無意識バイアスを感じることもある」という感想をいただくなど、ダイバーシティ推進の重要性について考えさせられる講演会となりました。

化学工学会男女共同参画委員会では、2022年3月に開催予定の第87年会において女性技術者フォーラムの開催を予定しています。メルマガ等により開催内容をお知らせ致しますので、ぜひご参加願います。

(執筆：吉宗美紀(産業技術総合研究所)、山内紀子(茨城大学))